

式辞

新入生の皆さん、上田染谷丘高校へのご入学、おめでとうございます。

保護者の皆様には、お子様のご入学を、教職員一同心よりお喜び申し上げます。

今、全世界で新型コロナウイルス感染症が拡大しています。3月から始まった、一斉臨時休校により、皆さんは、登校もままならない一か月余りの中学校生活を過ごしてきました。本日の入学式も、感染防止のための対策を講じて執り行うこととなりました。今何よりも、安心安全な学校生活のため、学校と家庭が協力し、一人一人のかけがえのない命を守る行動を取ることが求められています。教職員一同全力を尽くす所存ですので、どうか皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本校は、令和三年度創立百二十年を迎えます。本校の教育理念は、校歌に、「深き真実（まこと）を身に染（し）めて」「強き命を 培（つちか）ひて」「清き心を励まして」と歌われるごとく、いわゆる知・徳・体の調和のとれた人物の育成を、教育目標に掲げ続けてきました。

今、新入生の皆さんは、上田染谷丘高校の生徒、染谷生になりました。でも、まだ染谷生ではありません。染谷生「になる」ことと、染谷生「である」ことは同じではないのです。染谷生であるためには、どうすればいいのでしょうか。

佐久市出身の農村婦人問題研究者として活躍した丸岡秀子さんは、高校時代を振り返って、こう語っています。

「目標を立てて、その目標に向かって、自分の人生を育てていかねばならない。その根本のところを学校で学んだのです。だから、国語も数学も物理も化学も音楽も絵も体育も、その一時間、一時間決しておろそかにしようと思いませんでした。」

この「自分の人生を育てていくための勉強」をすることが、染谷生であるために必要なことだと私は思います。

では、「自分の人生をそだてていくための勉強」とは何でしょうか。今、私たちは、先の見えない不安の中に生きています。どう行動すべきなのか、どう生きるべきなのか、誰もが「正解」を求めています。

私たちは、九年前に、東日本大震災と原発事故という、巨大な災害を経験しました。作家の高橋源一郎氏は、その著書「非常時のことば 震災のあとで」の中で、こう述べています。

「なにか問題が起こった時、特に、それが、前例のないようなことであった時、それがどうしたことなのかを「考える」ことは難しい。・・・なぜなら、経験したことがなく、前例もないものについて、教えてくれる人は、どこにもいないから。

ぼくたちは、教わったこと、誰かが経験したこと、前例があったこと、本に書いてあったこと、それらを参考にして、みんなが認めてくれるような「正解」を導き出し、それを「考える」ことだと思ってきた。

でも、いま、ぼくたちは、とんでもない場所に連れて来られたのかもしれない。そこは、見たことも聞いたこともない場所で、そこで、なにをするべきなのかを、全部ひとりで考えなければならないのだ。

なにも参考にするものがない場所で、ものを「考える」時、どうすればいいのか。

自分の中を探ってみるのである。そこには、必ず、なにかがあるはずだからだ。そして、それしか、ぼくたちは頼るものがないはずなのだ。」

「自分の人生を育てていくための勉強」とは、まさに「自分の中を探ってみる」こと、「正解のない問いに自分なりの答えを見つけること」なのです。

でも、「自分の中を探ってみる」って、どういうことだろう、どうすればいいのだろう、私自身もずっと考え続けています。そして、その手掛かりを見つけました。それは、ロシアの文豪トルストイの民話「三つの疑問」を基にした、絵本「3つのなぞ」の中にありました。

ニコライという男の子は、「ぼくはいい人間になりたいんだ。でも、そのためになにをしたらいいのか、ちっともわからない。なぞが三つある。このなぞがすべてとけたら、きっとわかる」そう思っていました。その三つのなぞとは、

「いつが いちばん だいじなときなのか？」

「だれが いちばん だいじな人なのか？」

「なにをすることが いちばん だいじなのか？」

答えを出したのは、ニコライ自身でした。彼は、自分の行動で、答えを出していたのです。皆さんは、この「時」「人」「すること」の三つのなぞの答えは、なんだと思いますか。

ニコライの見つけた答えはこうです。

「いちばんだいじなとき」は「いま」。「いちばんだいじな人」は「そばにいる人」。「いちばんだいじなこと」は、「そばにいる人のために、してあげること」です。

皆さんも、一人一人この三つのなぞの答えを自分で見つけてください。

これから始まる高校生活の中で、皆さんは、我慢することが多いかもしれません。残念な思いをすることもあるかもしれません。それを思うと心が痛みます。だからこそ、一人一人が「いま」「そばにいる人」の「ためにしてあげること」を行動にしていきましょう。

今こそ、皆さん一人ひとりの力が必要です。自分の命と幸福を守ることは、みんなの命と幸福を守ることです。苦しい時こそ、笑顔でやり遂げましょう。

一人の一つの行動が、希望を生み、世界に希望が溢れていく、皆さんがそんな未来を創造してくれることを心から願い、入学式の式辞といたします。

令和二年四月七日

長野県上田染谷丘高等学校長
根橋悦子